

報告書抄録

ふりがな	かみさわいせき・じょうどやしきいせき さん							
書名	上沢遺跡・浄土屋敷遺跡Ⅲ							
シリーズ名	ほ場整備関係(経営体育成基盤整備)遺跡発掘調査報告書41-1							
編著者名	重田 勉・松室孝樹							
編集機関	滋賀県教育委員会事務局文化財保護課	公益財団法人滋賀県文化財保護協会						
所在地	滋賀県大津市京町四丁目1番1号			滋賀県大津市瀬田南大萱町1732-2				
発行年月日	平成26年(2014年)3月31日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		世界測地系		調査期間	調査 面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
かみさわいせき 上沢遺跡	しがけん 滋賀県	205	005	35°	136°	20100805	1,798㎡	経営体育成 基盤整備事業
じょうどやしきいせき 浄土屋敷遺跡	ひがしおうみし 東近江市			07'	08'	00"		
	かみひらぎちょう 上平木町	006	006	35°	136°	20110613		
				06'	09'	00"		
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
上沢遺跡	集落	中世後期～近世		溝・土坑 井戸・小穴		土師器・瓦質土器 陶磁器		
浄土屋敷遺跡	集落	近世以降		流路等		陶磁器		
要約	<p>浄土屋敷遺跡は縄文時代から中世にかけての複合遺跡である。今回の調査は狭小な調査区のため、遺跡の性格等の詳細は明らかにはできなかったが、広域にわたる調査範囲であったことから、おおよその旧地形を把握することができ、遺構の分布状況からみて、当地の開発には地形の制約があったことが想像される。</p> <p>調査で検出された遺構には土坑・小穴等のほかに、溝・流路・落ち込み等が認められた。出土遺物量が少ないため、各遺構の明確な時期については不明な点が多い。少量ながら須恵器等の古墳時代から古代にかけての遺物も散見されるが、出土遺物の内容をみる限り、中世期が当地域の開発の最盛期と考えられる。しかし、検出遺構は溝(耕作溝)が多いこともあり、当時の集落本体は東側の浄土屋敷遺跡か現上平木集落の位置にあったと考えられる。</p> <p>なお、浄土屋敷遺跡に含まれる調査区(010A区・010C区・010D区・011A区・011B区・011C区・011D区)について過年度に調査した隣接部分等と比較すると、遺構密度は稠密でなく、遺物出土量も少ない。011C区の西側を流れる江岸川は1970年代の灌漑用排水路の整備工事時に整備されたものだが、もともと並行するかたちで流れており、この江岸川を境として西側が後背湿地、東側が低位段丘面であること、また、遺構の検出量・遺物の出土量がともに少なかったことは、今回の調査地の大半が遺跡の縁辺部に相当することを示唆する。</p>							